2021年9月24日（金）みやぎ建設新聞　掲載

深松組

来年10月完成へ地鎮祭

社屋移転が着工

深松組（仙台市青葉区北山1の2の15　深松努代表取締役社長）は22日、同社100周年事業の一環として仙台市青葉区荒巻本沢に移転する本社の地鎮祭を現地で開催した。

建設場所は、仙台市荒巻学校給食センターに近接した仙台市青葉区荒巻本沢2の57の1ほかの4098・21平方㍍。ここにRC造4階建て、延べ2346・66平方㍍で免震構造を採用した本社ビルなどを建設。設計・監理は建築が盛総合設計、設備は東北開発コンサルタント、施工は三井住友建設が担当。月内に本格着工し、来年10月上旬の引き渡し、同12月上旬からの業務開始を予定している。

当日は、深松組の深松勇代表取締役会長をはじめ関係者約30人が出席。盛総合設計の栗原將光代表取締役社長が鎌入れ、深松努代表取締役社長が鍬入れ、三井住友建設東北支店の加茂裕之常務執行役員支店長が鋤入れを行った後、関係者が玉串を奉てんし工事の無事を祈願した。

神事の後、あいさつに立った深松社長は「100周年を新たな社屋で迎えたいという思いで昨年9月から計画を進めてきた。われわれは今までもこれからも、社是に基づき仙台、宮城、日本の発展に寄与していきたいと考えている。無事故・無災害で施設を建てていただき、近隣の方々から愛される施設になってほしい」と期待を寄せた。また、施工者を代表し加茂支店長は「記念すべき、そして先進的な施設に携わることができ、身の引き締まる思いだ。これまで培った持てる技術を結集し、品質・安全に留意しながら施工を進めたい」と決意を述べた。

今回の本社移転は、2025年3月に迎える同社の100周年事業の一環として計画。免震構造採用により大地震など有事の際に応急対応・復旧工事の拠点とするほか、近隣住民の一時避難所としても開放。敷地内に設ける車庫付き倉庫棟は防災備蓄倉庫機能も持たせる。また、環境に配慮した施設としてZEB Readyの取得も予定している。

盛総合設計の栗原社長

深松社長

三井住友建設の加茂東北支店長

三井住友建設の藤川雄二所長の話

長きに渡り地域に貢献してきた深松組の100周年事業に携わることができ光栄に思う。安全を第一に無事故・無災害で地域にも喜ばれる高品質の建物をつくりたい。

2021年9月24日（金）建設新聞　掲載

現地で地鎮祭を開催

深松組

設計＝盛総合設計、施工＝三井住友建設

深松組（仙台市青葉区北山1の2の15　深松努代表取締役社長）は22日、同社100周年事業の一環として仙台市青葉区荒巻に移転する本社の地鎮祭を現地で開催した。

建設場所は、仙台市荒巻学校給食センターに近接した仙台市青葉区荒巻本沢2の57の1ほかの4098・21平方㍍。ここにRC造4階建て、延べ2346・66平方㍍で免震構造を採用した本社ビルなどを建設。設計・監理は建築が盛総合設計、設備は東北開発コンサルタント、施工は三井住友建設が担当。月内に本格着工し、来年10月上旬の引き渡し、同12月上旬からの業務開始を予定している。

当日は、深松組の深松勇代表取締役会長をはじめ関係者約30人が出席。盛総合設計の栗原將光代表取締役社長が鎌入れ、深松努代表取締役社長が鍬入れ、三井住友建設東北支店の加茂裕之常務執行役員支店長が鋤入れを行った後、関係者が玉串を奉てんし工事の無事を祈願した。

神事の後、あいさつに立った深松社長は「100周年を新たな社屋で迎えたいという思いで昨年9月から計画を進めてきた。われわれは今までもこれからも、社是に基づき仙台、宮城、日本の発展に寄与していきたいと考えている。無事故・無災害で施設を建てていただき、近隣の方々から愛される施設になってほしい」と期待を寄せた。

鎌入れする栗原社長

鍬入れする深松社長

鋤入れする加茂支店長

2021年9月24日（金）建設通信新聞　掲載

創業100周年記念事業

深松組本社新社屋が起工

完成イメージ

鎌入れする栗原社長

鍬入れする深松社長

鋤入れする加茂支店長

設計＝盛総合設計ら　施工＝三井住友建設

深松組（仙台市、深松努社長）が、2025年3月に迎える創業100周年の記念事業として移転新築する本社社屋の地鎮祭が22日、現地で開かれた。設計は建築が盛総合設計、設備は東北開発コンサルタント、施工は三井住友建設が担当する。22年9月の完成、12月の業務開始を目指す。

規模はRC造4階建て延べ2346平方㍍。免震構造を採用し、有事の際は応急対応・復旧工事の拠点とするとともに、近隣住民の一時避難場所として開放する。

また、環境配慮型オフィスとして、外壁・屋上部分の断熱材強化やLow-E複層ガラスを採用するほか、天井放射型空調システム、高効率ヒートポンプエアコン、屋上太陽光発電設備などを導入。BEI（エネルギー消費性能）0・49を達成することで「ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）Ready」を取得する予定だ。さらに顔認証による解錠システムやノンタッチ操作型エレベーターなど、ウイルス対策を施した建物とする。

同市青葉区荒巻本沢2―57―1ほかの現地で開かれた地鎮祭には、深松社長や深松勇会長、栗原将光盛総合設計社長、奥田真治東北開発コンサルタント専務建築設計部長、加茂裕之三井住友建設常務執行役員東北支店長ら関係者約30人が出席。代表者による鍬（くわ）入れの後、神前に玉ぐしをさささげて工事の安全と早期完成を祈願した。

神事後、深松社長は「新社屋は当社の社是である『信用を重んじ建設事業を通じて地域社会の繁栄に奉仕する』という活動の〝母屋〟となる。社員が働きやすく、近隣の皆さんにも愛される建物にしていきたい」と述べた。

続いて加茂支店長が「このような記念すべき工事に参画できることは光栄であり、身の引き締まる思いだ。持てる技術を結集し、品質・安全管理に万全を期して新社屋を引き渡したい」と決意を表した。

＊　＊

藤川雄二所長（三井住友建設）**の話**

「免震構造などの施工に当たっては、当社の技術・実績を生かし、満足いただける品質を確保する。安全第一に、周辺環境にも細心の注意を払いながら工事を進めていきたい」

2021年9月23日（木）日刊建設新聞　掲載

深松組

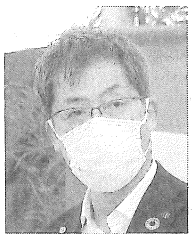
本社移転改築が起工

三井住友建設で施工

深松組（仙台市青葉区、深松努代表取締役社長）の本社移転工事の地鎮祭が22日、移転地の同区荒巻本沢で行われた。深松組の幹部や地元町内会長ら30人が出席し、新たな本拠地となる土地を清め、新社屋建設工事の安全と2025年に創業100年を迎える深松組のさらなる事業発展を祈願した。三井住友建設（東北支店・仙台市青葉区）の施工で月末に着工し、2022年9月末の竣工、同12月の業務開始を目指す。

式典には、深松勇会長や幹部職員、協力会の松尾謙一郎深栄会長、新社屋の建築設計を担当した盛総合設計（仙台市青葉区）の栗原將光社長、設備設計の東北開発コンサルタント（同）の奥田真治専務、三井住友建設の加茂裕之東北支店長らが出席。青葉神社の神職による神事を執り行った。

鍬入の儀では栗原社長が鎌入れ、施主の深松社長が鍬入れ、三井住友建設の加茂支店長が鍬を入れた。深松会長ら代表者10人が神前に玉串を捧げ、新社屋建設工事の無事故・無災害と荒巻本沢の地でのさらなる事業発展を祈願した。



三井住友建設の加茂東北支店長

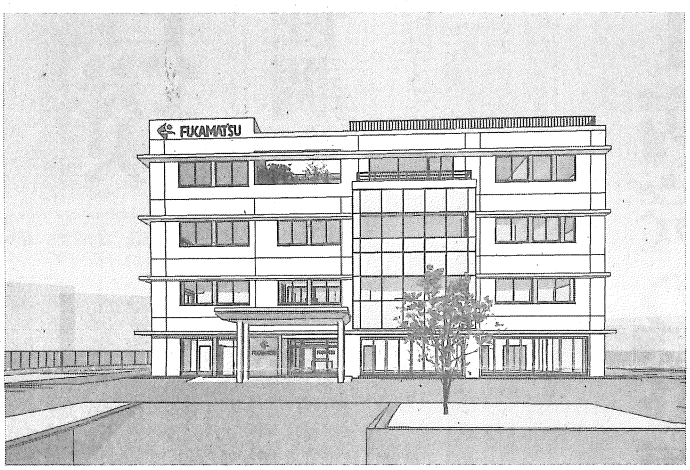
深松組の深松社長

深松社長は「創業100年を新社屋で迎えたい思いがあった。今後も仙台・宮城、日本に貢献できるよう、新社屋は社員が働きやすい、地元に愛される建物にしていきたい」と述べた。三井住友建設の加茂支店長はあいさつで「弊社の持てる技術を結集し、品質管理、安全管理に万全を期して引き渡しする」と述べた。

新社屋は、免振構造のRC造4階建て、総延べ床面積は約2739㎡。創業100周年記念事業の一環で、北山から荒巻本沢の社有地に移転する。本社ビルは現在の約2倍に拡充。災害時は1階大会議室を周辺住民の一時避難場所として開放する。エネルギー消費量を削減するZEBLeadyを達成する建物で、環境負荷軽減に貢献する。

深松社長は式典後「北山の現地では同じ規模でしか建てられない。災害時対応や従業員の増員で昨年9月、本社移転を決めた。新社屋は社員の声を最大限反映した。働き方改革を突き詰め、働きやすい環境をつくりたい」と述べた。同社は8月、本社移転を発表していた。

（写真上から）鎌入れをする盛総合設計の栗原社長、鍬入れをする深松組の深松社長、鋤入れをする三井住友建設の加茂支店長



完成イメージパース

■藤川雄二現場所長の話

多年にわたって地域貢献されてきた深松組様の新社屋建設工事で社員の職場環境、災害時の拠点など深松社長の思いがある。免振構造の建物はさまざまな経験がある。技術を発揮し、良い品質のものを引き渡したい